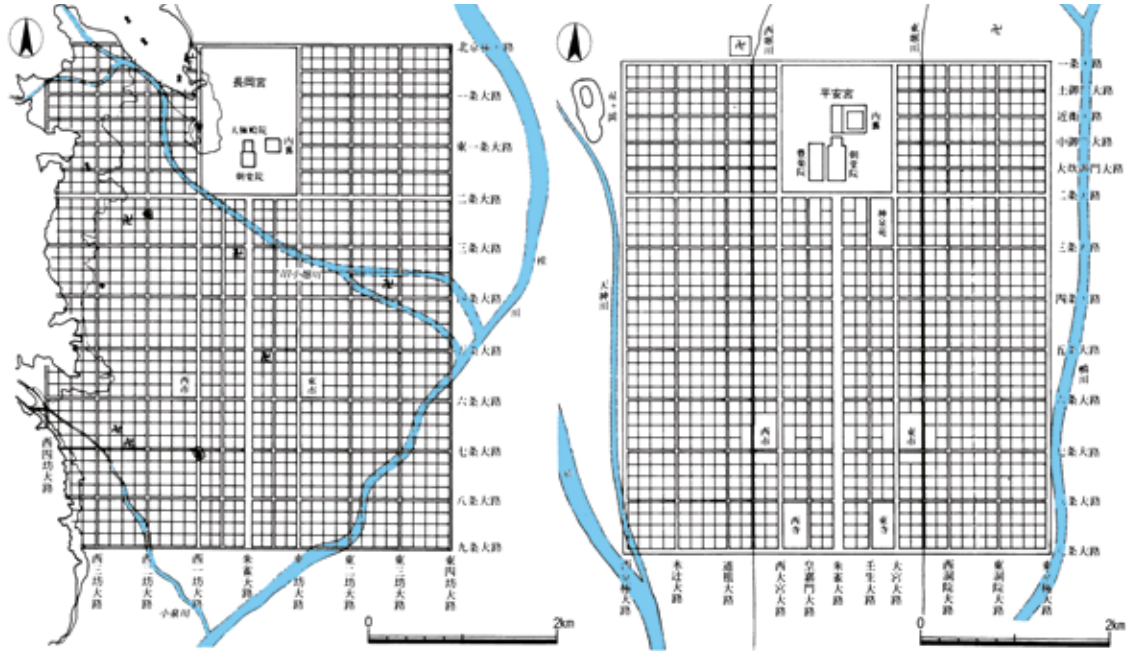


長岡京と平安京

—桓武朝の都城—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



長岡京条坊復元図

平安京条坊復元図

延暦3年(784)11月、桓武天皇は74年続いた平城京を廃棄し、やましろのくにおとくにくん山背国乙訓郡長岡村に遷都を断行した。この山背遷都によって、都は大和を離れることとなり、同時に、副都であった難波京も廃止されたのである。

しかし、長岡京はわずか10年で廃棄され、延暦13年(794)10月、かどの同じ山背国の葛野郡宇陀村の地に平安京が造営され、再び遷都が行なわれたのである。

桓武天皇の二度にわたる宮都の造営と遷都の原因は従来より洪水説・怨霊説など種々であるが、古代史では、両宮都の造営を同一線上にとらえる見解が主流を占めている。ここで遺跡から見た桓武朝の宮都の特徴をながめてみよう。

長岡京

京は、乙訓郡のほぼ中央部に位置し、西北から東南に旧小畑川が流れ、桂川と合流し大阪湾に注ぐ淀川となる、水運の便にたけた所である。また陸路は西に山陰道、南に山陽道、東北に東海道に通じる位置にある。長岡京は、従来宮都としてどこまで整備されていたかなど疑問視されていたが、近年発掘調査により都城の体裁がかなり整っていたことが判明した。

宮は、東西約1.0km、南北約1.6kmの範囲が推定されているが、発掘調査の成果から更に南北に広がる可能性がある。大極殿院は宮の中心に位置し、複廊で囲まれ、東西104m(347尺)、南北122m(404尺)ある。大極殿は、七間四面で

後殿とともに院内に独立し、殿舎配置は平安宮にも踏襲される。朝堂院は、大極殿の南に接し、後期難波宮と同様に八堂の建物で構成され、159m(530尺)四方の正方形で、規模はほぼ後期難波宮と一致する。大極殿院・朝堂院で出土する軒瓦の約90%が後期難波宮所用瓦であることから、これらの中心建物は難波宮から移築されたと考えられる。

内裏は大極殿院の東に位置し、朝堂院と同じく159m(530尺)四方の正方形で、築地回廊で囲まれる。ここは、第二次内裏(東宮)に推定されている。また、宮の北部では、塀に囲まれた敷地内に池や石組溝をともなった礎石建ちの倉庫が発見された。このことから、



長岡京・平安京遠望

天王山上空から比叡山を望む。手前に長岡京、その向こうに平安京があった。

この地区に平安宮と同様に大蔵のような施設があったと推定されている。

京の条坊規格は、平城京と同様天平尺の1800尺(約533m)を基準とする方眼で割りけられ、造営尺は29.6cmが想定されている。ただし、道路の割り付けが違ふことから京城内の一町の大きさが各部分で異なっている。坊数は東西各四坊と平城京・平安京と同じであるが、南北は十条と広く、調査成果から更に広がる可能性がある。また東海道などに通じる横大路の延長の五条条間小路が、計画線より大幅に南にずれることや、現在推定している大路小路の道路幅が発掘調査の結果と異なるなど、その位置確定に様々な問題を残している。

平安京

京は、京都盆地の中央に位置し、葛野・愛宕・紀伊の三郡にわたっている。三方を山に囲まれ、西を桂川、東を鴨川が南流し、「四神相応の地、山河襟帯自然に城を作す」といわれ、長岡京と同様、水運にたけた所である。平安京は、律令

制最後の都城であり、我が国古代都城の集大成ともいわれる。

宮は、京の中央北辺に位置し、東西約1.2km(384丈)、南北約1.4km(460丈)の長方形で、近衛家や九条家に伝わった古絵図などから官衙配置が復元されている。大極殿は、宮の中央に位置している。現在の千本丸太町交差点にあたるが、調査ではまだよくわかっていない。しかし、大極殿を囲む回廊を確認したことから位置が想定でき、中心は朱雀大路と中御門大路の中軸線を延長した交点にほぼあたる。朝堂院は、大極殿院と一体となり、わずかに龍尾壇によって区画されるだけである。規模は、東西約167m(56丈)、南北約465m(156丈)と、長岡宮とは異なり、平城宮第二次朝堂院に近い値を示す。また院内の建物は、長岡宮では八堂であったのが平城宮と同様に十二堂からなっている。

内裏は、朝堂院の東北に完全に分離して位置し、規模は東西約167m(56丈)、南北約212m(71丈)に推定されている。調査で内裏南面中門である承明門を確認したこ

とから内裏の中軸が確定した。しかもこの調査では、門の北側に輪宝・橛などを埋納した地鎮遺構も検出された。朝堂院の西には、大嘗会をはじめ、年中の諸節会や宴などが行なわれる豊楽院がある。規模は東西約167m(56丈)、南北約400m(134丈)で、朝堂院の南北長より22丈短い。調査でその正殿の豊楽殿の北西部が発見され、九間四間の東西棟であることが判明した。そのほか官衙は、造酒司や中務省などで主要な建物などを検出しているが、平城宮内のように頻繁な建て替えはあまり認められない。

京は、東西約4.7km、南北約5.2kmの南北に細長い長方形で、南北は長岡京より短く、平城京よりも土御門大路以北に北辺部が加えられたため長い。宮周辺道路も平城京の8丈・10丈を10丈・12丈と拡張している。条坊規格は40丈(約120m)を基準に一町を構成することから、従来の京とは異なり、京城内の宅地規模に対する差はない。更に一町は四行八門制により32分割され、それを一戸主と称し、宅地班給最小単位とした。造営尺は、29.847cmが想定される。

長岡・平安両京の造営には、以上あげたような相異があるが、改良されたのは、長岡京での部分的区画の統一、その発展としての平安京での統一基準による宅地区画の採用がある。しかも平安京ではその規格が官衙配置まで影響するなど、徹底して用いられ、ここに桓武朝都城の条坊制における帰結点の一つがみいだせる。